




◆ 中心市街地まちづくり戦略シンポジウム

<p>プログラム</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 開会挨拶 頼重 秀一(沼津市長)</li> <li>● 第一部:基調講演「地方都市におけるまちづくりのあり方」 岸井 隆幸(日本大学 特任教授)</li> <li>● 第二部:「沼津市中心市街地まちづくり戦略(案)」の説明</li> <li>● 第三部:パネルディスカッション「ヒト中心のまちづくり」 コーディネーター:岸井 隆幸(日本大学 特任教授) パネリスト:小松 浩二(沼津あげつち商店街理事長・レーンスケープ代表理事) 大木 真美(NUMAZU DESIGN CENTER 主宰) 土屋 修(UR 都市機構 統括役) 新屋 千樹(沼津市 副市長)</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div>
<p>まちづくり戦略(案)に対する質疑応答</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 沼津駅周辺総合整備事業は長い期間を要する事業であるが、その間この戦略をどのように進めていくのか。 → 沼津駅周辺整備事業による効果は、事業の進捗に応じて徐々に現れることから、本戦略についても段階的に取り組んでいく。例えば、短期的にはアルコミチのような社会実験を試行的に行うことで、市民や関係機関と共有し、そこで出た意見をフィードバックしながら実現性を高めていきたいと考えている。</li> <li>● まちなかの建物を建て替えていくことも大切であるが、空き店舗などを活用したリノベーションまちづくりの取組も大切であると思う。今後、これらをどのように進めていくのか。 → これまでのリノベーションまちづくりの取組により、38 件もの案件が事業化し、まちなかに点在しているが、これからは、面的な動きに進化させ、エリア全体の価値を高めていきたいと考えている。 また、道路などの公共空間と沿道の建物が一体となってヒト中心の空間を造り出していきような、官民連携によるまちづくりにも取り組んでいきたい。</li> </ul>
<p>パネルディスカッション での主な意見</p>	<p>議題① 現在の中心市街地に思うこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 駅周辺は、地下道を通り、または、交通量の多い道路を横断しなければならず、歩きにくい。</li> <li>● 海、山、川などの豊かな地域資源が中心市街地の近くにあるにも関わらず、使いこなせていないことがもったいない。</li> <li>● 長年地域の方々に愛されている小さな名店が数多く健在であったり、昔から続くお祭り等の風習が今でも行われていたりすることなどは、沼津の魅力の一つである。</li> <li>● リノベーションまちづくりの取組等により、昔ながらの商店の中に、新規の事業者による個性的な店舗が誕生するなど、若い世代が暮らしを造り出しやすいまちになってきていると感じる。</li> </ul>

### 議題② 中心市街地まちづくり戦略に思うこと

- 機能的で使いやすく、質の高い駅前広場は、沼津で暮らす人にとって誇りとなり、また、駅に降り立つ人にとって象徴的な空間となると思う。
- きれいで歩きやすい駅前広場になっても、駅前広場周辺にコンテンツがないと人は集まらないため、ハード整備と併せてどのようなコンテンツを入れていくかが重要である。
- 広場空間にどのような人に居てもらいたいのかを考えていくと、コンテンツが見えてくると思う。
- 将来、イメージパースのような空間が生まれたときに、誰がその空間を使いこなすのか、その空間で何のための活動が行われるのかなど、イメージを高めることが重要である。
- 社会情勢の変化に左右されない、心の豊かさや気持ちのゆとりを提供することができる空間が造られるのではないかと期待している。

### 議題③ ヒト中心のまちづくりに期待すること、求めること

- まちづくりに携わるきっかけづくりや、新たにまちづくりにチャレンジする人を支援する仕組みづくりが必要である。
- 禁止事項が多い広場ではなく、市民が自由な使い方のできる広場となり、幅広い世代が憩い、交流する風景が日常的に見られるようになると良いと思う。
- 鉄道高架事業等は長い期間を要する事業であるため、ソフトを含めて段階的に施策を展開するとともに、早い段階で将来の姿を共有できるようにすることが大切である。
- 素敵なまちをつくっていこうという流れをつくるのが、長い期間を要するまちづくりでは重要である。